

生活・暮らしについて

1 福祉の充実

急速な人口減少と少子高齢化に加え、ライフスタイルの多様化やコミュニティの希薄化により、既存の地域ネットワークでは捉えきれない「見えない困りごと」が顕在化しています。さらに、物価高騰の影響やデジタル化の進展に伴う情報格差（デジタルデバイド）など、新たな福祉課題への対応も急務となっています。

本町においては、これらの多様なニーズに対し、ICTの活用による効率的な見守り体制の構築や、属性を問わない重層的な支援体制の整備を推進しま



す。行政、民間企業、ボランティア、そして町民が一体となり誰一人取り残されない、温かみのある地域福祉の充実に取り組んでまいります。

子ども・子育て支援については、「こどもの健やかな育ち」と「家庭における子育て」を、地域社会全体で支え合う環境づくりを推進してまいります。すべての妊産婦や子育て世帯、子どもに対し、「こども家庭センター」における母子保健機能と児童福祉機能の一体的な運営を通して、妊娠・出産期から就学後まで、孤立させない相談体制を構築し、安心して出産や子育てができる環境整備に取り組んでまいります。

子どもを望む方々の経済的負担軽減支援としては、令和8年度より「久米島町離島患者等通院費助成事業」の対象を拡大し、新たに一般不妊治療を受けるご夫婦も対象とします。

令和8年度の新規事業として、「えほんでつながる子育て支援事業」を展開いたします。乳幼児期は、生涯にわたるウェルビーイング（幸せ）の土台を築く

極めて大切な時期です。「えほん」という共通のツールを通じ、保育所・幼稚園と家庭が協力し、子どもの成長を支援してまいります。すべての子どもたちに「質の高い教育・保育・子育て」の機会を均等に提供し、島全体で子どもの成長を喜び合える町を目指してまいります。

本町が独自で実施している「子ども健康プロジェクト」については、医療機関や教育現場と連携し、健康診査や保健指導、さらには健康教育の充実を図ります。子どもたちが自らの健康を主体的に守る力を育むとともに、地域全体で子どもたちの健やかな成長を支える環境づくりに取り組んでまいります。

町民の健康づくりについては、町民の健康寿命の延伸と医療費の適正化を目指し、特定健診に関する取り組みを強化します。特に、働き盛り世代の未受診者対策を強化し、生活習慣病の重症化予防に重点を置いた保健活動の強化に努めてまいります。

障がい者福祉の推進については、基本理念である「障

がいがあってもその人らしく輝き、安心して暮らせる共生のまち」を目指します。全ての障がい者が社会的な利益や不平等の解消に向けて、地域全体で支え合っているよう取り組んでまいります。

高齢者福祉の推進については、地域包括ケアシステムの構築を進め、高齢者の生活実態や心身の状態、ニーズを考慮した上で、必要となる「介護」「医療」「予防」「生活支援」が相互に連携し、一体的に提供される仕組みを目指します。

その実現に向けて地域の特性や資源の有効活用を図り、高齢者自身が要介護状態となることを予防するとともに、健康保持・増進に努め、住み慣れた地域でできる限り自分らしい日常生活を営めるように取り組んでまいります。

国民健康保険事業については、沖縄県国民健康保険運営方針に基づき、国保財政の健全化に向けた「赤字解消」と安定的な財政運営を最優先課題として取り組みます。また、マイナ保険証の利用促進による事務の効率化を図るとともに、納

税の公平性を確保するため、国保税の収納率向上に努めてまいります。

2 教育の充実

本町では、豊かな自然と文化の中で、子どもたちが自らの可能性を信じ、未来を切り拓く力を育んでいける教育を推進し、学校・家庭・地域全体で、幼児児童生徒一人一人に自己肯定感を育み、郷土を愛し、持続可能な久米島町を創造できる「生きる力」を養うことを目指してまいります。

学校教育の充実に加え、久米島ならではの自然や伝統文化を活用した体験学習を充実させ、知的好奇心と探究心を育む「確かな学

